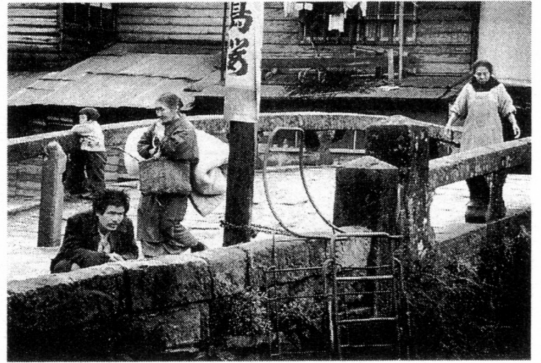


文化



岡本太郎撮影、内藤正敏プリント「長崎 1957年」

「こんな日本! 岡本太郎が撮る×内藤正敏が撮る」より(神奈川・生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、10月3日まで)

日本に帰化して「小泉八雲」と名乗った文芸者、ラフカディオ・ハーン(一八五〇—一九〇四年)が亡くなって百年。日本に関する英文の物語や随筆を書いたハーンは「日本の良き理解者」と評されてきた。だが最近はその近代化の中で失われつつある文化を積極的に評価した人物としてとらえ直す研究が進んでいる。

クレオール追求

ハーンは日本に来る前にカリブ海に浮かぶフランス領のマルティニーク島を旅している。平川祐弘・東大名書教授は今年刊行の「ラフカディオ・ハーン」(ミネルヴァ書房)で、その体験の重要性を指摘した。

同島ではフランスからの植民者、アフリカからの労働者らが種々言語を混交させていたノートをラフカディオ・ハーンが所有していたことが研究で明らかになった。

ラフカディオ・ハーン 没後100年



セツと結婚・帰化 小泉八雲に改名

ギリシャのイオニア諸島生まれ。父はアイランド人の英国陸軍軍医、母はギリシャ人。両親の離婚でアイランド・ダブリンの大邸宅の下で育てられる。一八六九年から米国で新聞記者などをした。後、九〇年日本へ。島根県尋常中学校、日本の第五高等学校、東京帝大、早稲田大で英語・英文学を教える。九一年に小泉セツ(節子)と結婚。五年後に日本に帰化して小泉八雲と改名した。代表作に「心」(怪談)など。

第二の文化着目 先駆性で再評価

口承文芸など 研究活発に

青い、ソロ・マルティネル氏が読み、八つのクレオール民話を書かれています。突き止めた。マルティネル氏は「マルティネークの言葉や土地の人の考え方やその人間性、その貧困、歴史、記憶、土地の地理などを短い物語の中に要約している。すばらしい文化遺産」

「耳なし芳のはなし」など多くの怪談は妻の朗読を基にして生まれた。ハーンはフランスなど

「ハーンは低く見られ てきた口承文芸の地位を高めた」と評価する。ハーンは「耳の悦楽」(紀伊国屋書店)を刊行する西成彦・立命館大教授。庶民の文化は口承で伝わる。市井の人々の声に熱心に耳を傾けたハーンは耳の人

「国文学」一九〇七年七月と述べている。文学や思想の分野では一九〇〇年ごろから、植民地主義を批判的にとらえる「ポスト・コロニアルリズム」とともに、クレオールが盛んに研究されている。植民者对被植民者、西洋対東洋など二項対立を超える第三の道として多文化、多言語的な状況がヒントになるとも考えられている。平川氏は「神道、仏教、キリスト教が共存し、文字にも漢字とかなの両方が使われる。ハーンにとっては日本もクレオールだったのではないかと話す。



ハーンが逗留したとみられる加賀浦の旅籠

だど西氏は言う。実際、日本で結婚した妻のセツが記した「思ひ出」に「昔話のレシビ集も著してハーンに話す時に私らが本を見ながら話します」と本を見る、いけませぬ。ただあなたの話し、あなたの言葉、あなたの考でなければいけません。ハーンは「民俗学者の先駆者」と申します」とある。

「賽(さい)の河原」で知られる加賀浦の藩戸(くげ)には両者とも興味を覚えていたという。若松氏は「ハーン研究の一助になれば」と話している。

英作文の添削も 教師としての側面に光を当てる研究も進んでいる

長年日本に在りて、英文学教育にかかわってきたジョン・ヒューズ氏は「昨年、『ハーン』の編輯の中で、『研究社』を刊行した。十九世紀フェミニズム研究において不可欠な作品と見なされているジョン・エリオット『タニエル・テロンダ』を、ハーンが講義の中でいち早く認めた例を紹介し、高く評価している。(文化部 中野稔)

今年六月、ハーンの添削を受けた生徒の英作文ノートを撮影したガラス板が、熊本県立図書館(熊本市)で見つかった。ハーンが松江中学にいたころのものだ。「間違っても気にしないで」などと生徒を励ます言葉が書かれている。没後百年の命日に当たる九月二十六日の前後、国際シンポジウム「世界のなかのラフカディオ・ハーン」が東京大、早稲田大をはじめ、島根、熊本などゆかりの地で開かれる。八月には松江で小泉凡氏らが中心になり、ゆかりの地を訪ねる小中学生向けの講座も予定している。

今年、誕生の日を共同研究するなど交流を深めたが、フィリピン人の感性や心情を重視する彼女と、客観的事実関係を軽視できない私との間に研究上の対立もあった。一九九八年、フィリピン大学から名誉博士号を授与され、総長主催の昼食会に出席した際は深刻な衝突の最中だった。

「交遊抄」 毎年、誕生の日を共同研究するなど交流を深めたが、フィリピン人の感性や心情を重視する彼女と、客観的事実関係を軽視できない私との間に研究上の対立もあった。一九九八年、フィリピン大学から名誉博士号を授与され、総長主催の昼食会に出席した際は深刻な衝突の最中だった。